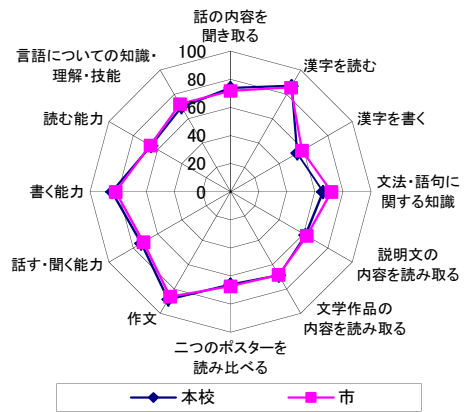


宇都宮市立横川中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話の内容を聞き取る	73.9	71.9
	漢字を読む	87.0	85.7
	漢字を書く	54.9	58.7
	文法・語句に関する知識	65.9	71.7
	説明文の内容を読み取る	61.6	62.6
	文学作品の内容を読み取る	68.8	68.3
	二つのポスターを読み比べる	66.0	67.2
	作文	88.6	86.2
観点別	話す・聞く能力	73.4	71.7
	書く能力	84.4	81.8
	読む能力	65.4	65.9
	言語についての知識・理解・技能	69.7	72.1



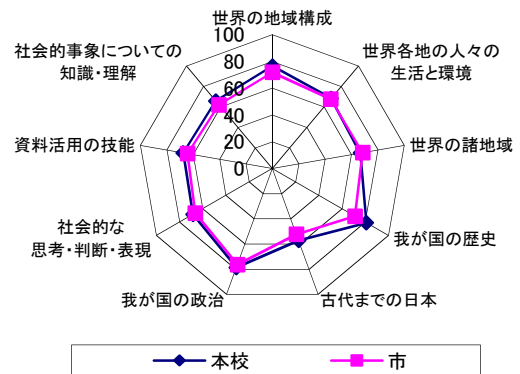
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話の内容を聞き取る	本年度は宇都宮市の平均を2.0ポイント上回る結果となった。「西山さんのスピーチ」を聞いて、内容について答える問題だが、全体の内容はよく聞きとることができている。しかし、スピーチの一部分について聞かれた問題の正答率が低い。	話の全体を聞きとることはできるが、詳細を聞きとることができていない。そのため、授業では積極的に聞きとりテストを実施していく。詳細を聞いてメモをとることを習慣づけるように指導していく。その際、言っていることをすべて書き記すのではなく、重要な情報のみを書き取るように指導していく。
漢字	本年度は宇都宮市の平均を、読みでは1.3ポイント上回り、書きでは3.8ポイント下回った。小学校で学習した漢字の書き取り問題だが、4問中3問が市の平均を下回っている。特に、訓読みの漢字の書き取りができていない。	単元末に実施している漢字テストを今後も継続して実施していく。また、漢字テスト前の漢字練習を習慣づけるよう、漢字練習プリントや自主学習ノートを活用することで、漢字の読み書きの定着を図っていく。
文法・語句に関する知識	本年度は宇都宮市の平均を5.8ポイント下回る結果となった。短文の文節の数や単語の数、故事成語の意味、漢字の部首名を問う問題が出題された。文節の問題はよくできているが、単語の問題と部首の問題が市の平均を6.0ポイント以上下回っている。	文法は、学年が上がっても使い続けていくものである。そのため、授業の中でも、問題集やワークシートを活用しながら問題演習を行い、理解を図っていく。文節の仕組みを理解させることで、単語についての理解を深め、さらには単語の分類への理解につなげていきたい。
説明文の内容を読み取る	本年度は宇都宮市の平均を1.0ポイント下回っている。石井象二郎氏の『わたしの研究 アリに知恵はあるか?』からの出題である。全体の内容を整理してまとめる問題では市の平均を5.5ポイント上回っているが、その他の問題は全て市の平均を下回っている。特に、接続詞を補充する問題ができていない。	大要は理解できているが、その詳細を読み取る問題を苦手としている生徒が多いのが現状である。そのため、傍線部周辺をよく読むことを指導することで、理解を促していく。接続詞の問題では、授業の中で接続詞の役割について説明し、空欄前後の文の特徴を理解させたい。
文学作品の内容を読み取る	本年度は宇都宮市の平均を0.5ポイント上回っている。竹内もと代氏の『青空の七人』からの出題である。心情の変化やその変化のきっかけが明確に示されている問題の正答率は市の平均を上回っている。しかし、登場人物の様子や行動から心情などを想像する問題の正答率は市の平均を下回った。	物語作品に対して強い関心をもつ生徒は多いが、文章内容から登場人物の心情や情景を想像することを苦手とする生徒が多い。文章の直接的な意味は理解できているようなので、心情が変化するきっかけの部分やその周辺から、心情や情景を想像させて表現することを指導していく。
二つのポスターを読み比べる	宇都宮市の平均を1.2ポイント下回る結果となった。昨年度は出題されていない。同じ内容を伝える2つのポスターを比較する問題である。一方のポスターの内容を目的に沿って書き換える問題では、市の平均を2.0ポイント上回っているが、表現の工夫を捉える問題で5.0ポイント市の平均を下回った。	ポスターの大要や視覚的にどのような違いがあるかは理解できている。そのため、その違いからどのように印象が変わるかを考えさせて、表現の工夫の理解について理解させたい。その上で、表現技法についての理解にもつなげていきたい。
作文	本年度は宇都宮市の平均を2.4ポイント上回る結果となった。二つの学級目標のうちどちらがよいか選び、その理由を書く問題である。全ての条件において、正答率は80%を越え、市の平均を上回っている。さらに、立場を明確にして、その理由を書き、内容に沿ったまとめを書くという条件では、90%以上の正答率だった。しかし、構成や文字数では、若干正答率が低い。	作文に対して苦手意識を持っている生徒が多いのが現状である。また、作文を書くときの条件を意識できていないこともあるので、段階を踏んで作文指導をしていきたい。短い作文や単元の感想を書かせることで書くことに対する苦手意識を払拭していきたい。

宇都宮市立横川中学校 第1学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の地域構成	76.5	71.9
	世界各地の人々の生活と環境	68.3	67.7
	世界の諸地域	66.8	68.4
	我が国の歴史	80.9	71.2
	古代までの日本	57.1	52.3
	我が国の政治	78.6	76.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.4	66.5
	資料活用 of 技能	67.7	64.3
	社会的な事象についての知識・理解	65.8	62.1



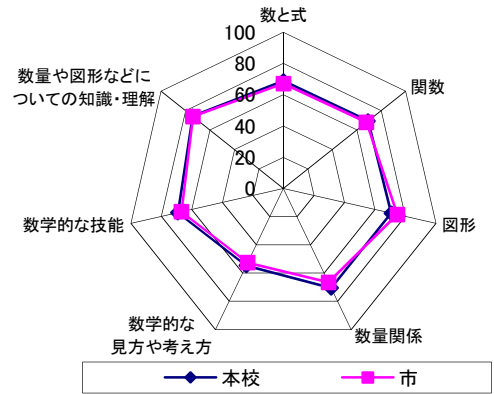
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点	
地理	世界の地域構成	全体的には、市よりも4.6ポイント高い正答率となった。どの設問においても市の平均を上回った。特に、緯度と経度の読み取る「技能」の問題に関しては、市の平均を10.4ポイント上回った。	全体的に市の平均を上回っていたが、重要語句のチェックやワークブックの活用を継続し、基礎的・基本的な知識の定着を図っていききたい。 また、デジタル教科書を活用し、写真やグラフの推移などをわかりやすく説明し、資料を読み取る能力の向上を図るとともに、県版の地理ノートの問題を有効に活用し、知識をもとに考え、自分の言葉で表現する「思考・判断・表現」の能力の向上を図っていく。 白地図も普段から繰り返し活用し、様々な地名や地形を場所と関連させて覚えさせることも継続していききたい。
	世界各地の人々の生活と環境	全体的には、市よりも0.6ポイント高い正答率となった。世界各地の人々の伝統的な住居の理解をもとに、写真を読み取る問題では高い正答率となったが、ファストフード店が行っている工夫について考える、「思考・判断・表現」に関する問題で思うような正答率が得られなかった。	
	世界の諸地域	全体的には、市よりも1.6ポイント低い正答率となった。6つの領域の中で唯一市の平均を下回った領域となった。アジア州における主な国々の貿易の特色の理解をもとにグラフを読み取る「技能」の問題において、特に正答率が低い結果となった。	
歴史	我が国の歴史	全体的には、市よりも9.7ポイント高い正答率となった。太平洋戦争についての設問に関しては、市の平均を20.2ポイント上回った。	地理的分野と比べると、市の平均と比べ全体的に高い正答率となっており、基礎・基本的な知識の定着が図られていることがわかる。重要人物や重要事項を、時代と関連づけて覚えることを普段から意識させていることが、年表の読み取りなどで高い正答率につながっていると思われるので、継続していききたい。 ある時代(今回は8世紀前半)に関する部分だけ正答率が低いという結果になってしまったので、小テストなどを実施することで、穴になっている時代はないかを確認するとともに、生徒にどの時代においても、時代知識を定着させられるようにしていきたい。
	古代までの日本	全体的には、市よりも4.8ポイント高い正答率となった。特に、年表の読み取りの問題は9.5ポイント、十七条の憲法の問題は14ポイント、大化の改新の問題は14.3ポイント市の平均を上回った。しかし、平城京に関する問題、古事記、日本書紀に関する問題など、8世紀前半の時代に関する問題では市の平均を下回る結果となった。	
公民	我が国の政治	全体的には、市よりも2.3ポイント高い正答率となった。「知識・理解」の観点の問題が中心であったが、全ての設問において、市の平均を上回る結果となった。	日々のニュース、世の中の出来事の話などを効果的にすることで、生徒の社会的な事象に対する興味・関心を高めていきたい。

宇都宮市立横川中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	68.7	67.1
	関数	69.2	67.9
	図形	70.7	74.7
	数量関係	70.5	66.5
観点別	数学的な見方や考え方	54.6	52.6
	数学的な技能	69.2	66.8
	数量や図形などについての知識・理解	74.2	73.9



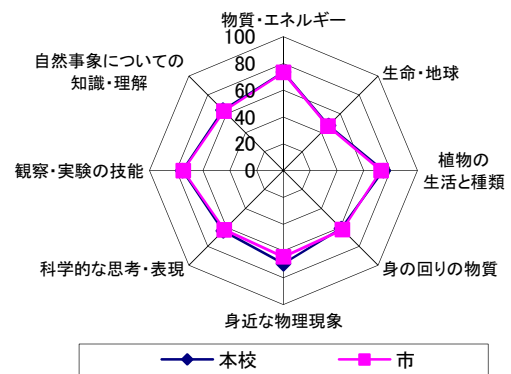
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	本年度は宇都宮市の平均より1.6ポイント上回っている。正負の数の基本的な計算については、理解されているが、分数を含んだ文字式や比例式の解き方、文章問題の正答率が低くなっている。	計算の仕方をしっかり理解させ、基本的な学力を身に付けさせたい。また、文章問題については、繰り返し解くことにより、解き方のパターンを理解させ、活用的な問題を解くことができる力の定着を図りたい。
関数	本年度は宇都宮市の平均より1.3ポイント上回っている。基本的な比例、反比例の知識は身に付いている。比例のグラフをかく問題では、高い正答率である。反比例のグラフから式を読み取る問題では、比例定数が求めることができず、正答率が低くなっている。	基本的な関数の内容は理解できているので、式やグラフの活用の仕方を正確に指導していきたい。表、式、グラフを関連して考えられるように、多くの問題を解き、定着を図り、次年度の一次関数につなげたい。
図形	本年度は宇都宮市の平均より4ポイント下回っている。拡大図を理解し、選択する問題の正答率が低くなっている。	図形の領域は小学6年で学習した内容であり、中学校の図形の領域の基本となる部分であるので、しっかり確認し、中学校の平面図形や空間図形の単元につなげていきたい。
数量関係	本年度は宇都宮市の平均より4ポイント上回っている。場合の数の求め方や柱状グラフの読み取りについては、正答率が高かった。	数量関係の領域は小学6年で学習した場合の数と資料の調べ方の問題であり、基本はよく理解されている。中学校での学習では、活用的な問題の解き方をよく確認し、定着を図りたい。

宇都宮市立横川中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	73.6	73.3
	生命・地球	47.6	47.0
	植物の生活と種類	74.5	72.9
	身の回りの物質	61.1	62.4
	身近な物理現象	69.5	64.5
観点別	科学的な思考・表現	63.7	62.5
	観察・実験の技能	75.3	74.8
	自然事象についての知識・理解	63.8	62.8



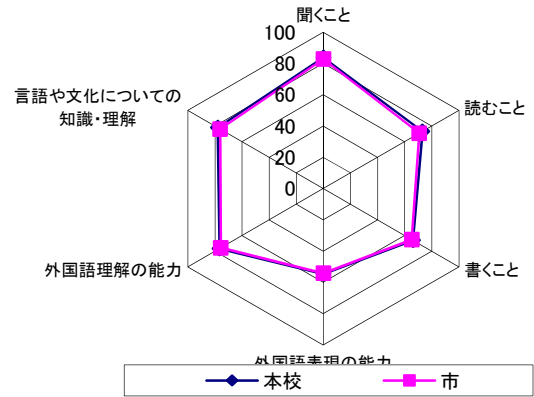
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	市の平均と同程度である。生徒の大半は、光の反射と屈折の規則性や音の性質について、基本的な理解ができています。 凸レンズによる像のでき方をについては、作図が苦手な生徒が多い。また、音の速さの求め方も苦手な生徒が多い。	凸レンズによる像のでき方は、作図の練習を繰り返して、作図になれるようにしたい。 また、音の速さの求め方については、距離と時間から速さを求める計算と、速さと時間から距離を求める計算の練習をしっかりと行いたい。
生命・地球	市の平均と同程度である。主に小学校で習う内容の出題である。地層の観察の仕方や、地層のでき方、堆積岩の特徴については、大半の生徒が理解している。	身近に観察できる地層や露頭はないが、できる限り岩石や鉱物、化石などの標本を使い基本的な知識や理解を定着させたい。 また、ビデオなどの視聴覚機器を活用し、火山のようすやプレートテクトニクスについての理解を深めていきたい。
植物の生活と種類	市の平均と同程度である。植物の体のつくりやはたらきについては、大半の生徒は基本的な理解が十分に身につけている。一方で、植物の特徴によるなかま分けについては、それぞれの種類の代表的な植物名が定着していない。	身近な植物を利用し、観察やスケッチを行ったり、なかま分けによる標本作りを行ったりして、植物の特徴による分類をできるようにさせたい。
身の回りの物質	市の平均と同程度である。生徒の大半は、気体の性質や発生、採集方法は、実験を通して基本的な理解ができています。 また、グラフから物質の状態変化のようすを読み取ることも、多くの生徒はできている。密度の計算は、苦手な生徒が多い。	今後も実験を通して、器具の使い方や身近な物質の性質については理解を深めていきたい。 密度や濃度については、その用語の意味だけでなく、計算問題を基本的なものから応用問題まで、段階的に繰り返し練習する必要がある。
身近な物理現象	市の平均に対して、5ポイント高い。全て、小学校の内容の出題である。この原理や力の概念、及び電気の性質については、生活体験からの考え方がしっかりできている。	小学校で学習してきたことや、生活体験を踏まえながら、身近な器具を利用した実験やモデルを通して、その現象やメカニズムについて理解を深めたい。 また、圧力や浮力については、図を使った計算問題をしっかりできるようにさせたい。

宇都宮市立横川中学校 第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	83.8	82.8
	読むこと	73.1	70.8
	書くこと	66.1	65.2
観点別	外国語表現の能力	54.5	54.1
	外国語理解の能力	76.7	75.7
	言語や文化についての知識・理解	78.0	76.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	本年度は宇都宮市の平均より1.0ポイント上回っている。英文をきいて、その内容に当てはまる絵を選ぶような問題の正答率が高い。また、質問に対する正しい受け答えを選ぶような問題の正答率はやや低くなっている。	授業では、対話文を友人と一緒に読む練習をしたり、ALTの話聞き取ったり、質問に対して答えたりするような活動を行ってきた。定期テストにおいても、リスニング問題を多くし、英文を聞き取る機会を増やしてきた。今後もこのような簡単な英文を聞きとるという機会を確保した授業展開をしていくことで、英語への苦手意識をなくしていきたいと考えている。
読むこと	本年度は宇都宮市の平均より2.3ポイント上回っている。英文の概要を読み取る力については思うように思われる。概要は読み取れるのだが、正確に読み取るということが不得意な生徒もいる。	英文を読むときには、常に主語と動詞を意識させ、英文の構造を理解しながら意味を捉えられるように指導してきた。この成果もあって、英文を読む力は徐々に上がってきている。今後は、より多くの量の英文を、素早くそして正確に読み取れるように、授業のなかでも、教科書以外の様々な英文を読んでいくような機会を作りたいと思う。
書くこと	本年度は宇都宮市の平均より0.9ポイント上回っている。市の平均は上回っているのだが、指定された内容や自分のことを英語で表現することに苦手意識を持っている生徒もいる。また、言いたいことを表現しようとしているのだが、単語を正しいスペルで書くことができずに正答できなかった生徒もいた。	まずは自分のことを英語で表現できるように、授業で練習していく必要がある。英語で言えるようになったら、次に正確なスペルで書けるように、基本動詞や重要単語を何度も練習をさせて、書く力を育成していきたいと考えている。